

基本施策H3 市民に信頼される市役所にします

主管課：行政体制整備室

個別施策

- H3-1 自ら考え、自ら発信し、自ら行動する職員（職場）を育成します
- H3-2 効果的で効率的な行財政運営を行います

ア 施策の目的

市役所が、自律的な行財政運営を行っている。

イ 基本施策の評価

B c 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
基本施策の成果指標 目標達成率 (%)	95.1% (26年度)	↑	目標値	95.0	95.0	100.0	100.0	100.0
		実績値	95.9	96.2	95.5			
		達成率	100.9%	101.3%	95.5%			

※ 平成30年度長崎市総合計画審議会における政策評価に関する意見の中で、「成果指標の目標値が95%となっているが、本来100%とすべきではないか。」「各基本施策でAと評価されているのは約3割しかないにもかかわらず、市政全般の評価結果を成果指標とするH3の評価結果がAとなるのはおかしい。」との意見があり、施策評価検討課長会議での協議にて、目標値を100%に見直した。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

- メンタルヘルス不調の人が横ばいであるなど、数値化しにくい形で記載されているが、評価としては、何人がどうなったなど具体的に記載したほうがわかりやすいのではないか。
- 事務等の集約、簡素化や、「ふれあいセンター」の指定管理などの行財政改革の取組みについて、このことにより具体的に職員数がどうなったなど数値の記載がないと、その効果がわからないのではないか。
- 効果的で効率的な行財政運営というと、市職員の生産性になると思う。残業時間や職員の総労働時間がどれくらい減少したのかというデータが必要だと思うので、来年度からは資料を用意していただきたい。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 時間外の数字を公表することは、公表方法を含めてなかなか難しいかもしれないが、市役所の中でもこの部署が時間外が多いということなどを数値で表に出すことによって、時間外の削減意識も高まるのではないかと。また、公表することによって、メンタル面でのいろいろな問題などにつながってくるのではないかと。
- 他都市との比較は難しいということだが、行政機関として他の中核市がどのような施策をしていて、どのようなことをしていないのかを調査する、ベンチマーク（他との比較により状況を改善する活動）して、良いところはまねる、ベストプラクティス（最も効率の良い方法）してひとりよがりにならないようなマネジメントも必要ではないかと。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 成果指標「改善提案の提案件数」について、件数を対象にすると、案がたくさん出てきても効果があがらないという実績もある。実際にどれくらい効果があがったかが大事で、職員一人あたりにノルマをかけて実績をあげるより、小集団活動としてみんなで話し合いながら、実際にどれくらい業務改善ができたのかという効果額の方が、指標としては適切だったのではないかと。
- 行財政改革プランにおける財政指標の目標値について、策定当時の長崎市の財政状況からより改善を目指し設定したということだが、現状をベースにすると、跳びはねた目標は出てこなくなるので、次期計画では平均的な数字を視野に入れた検討をしていただきたい。
- 成果指標の検証で「市民感覚と乖離があるため検討する必要がある」とある。乖離があることはよくあることだが、問題は市民感覚をどのように検出し、フィードバックするかであり、そのしくみを構築する必要がある。最初の市民感覚の検出が大事だと思うので、そこをぜひ徹底して構築していただきたい。
- 行財政改革について、あまり効果があがらないことはやめることも今の働き方改革の世の中では必要になる。今からはいかに頑張るかというだけでなく、市民サービスをモニターし、市民への満足度は下げないようにしながら、どのように業務を簡素化していくかという視点も必要ではないかと思うので、次期計画以降に反映していただきたい。